

第三、「サノクリジン」ニ依ル人體結核治療成績

東京市療養所 醫學博士 田澤 錄 二

外醫局員 一同

本試験ノ大體方針、殊ニ使用製劑及ビ其ノ分量ハ「サノクリジン」調査委員會ノ議ニ從ヒタリ。是等ノ點及治療成績全體ノ結論ハ之レヲ宮川博士ノ報告ニ譲リ、茲ニハ單ニ東京市療養所醫局員ノ觀察セル事實ノミヲソノ儘述ベ置カントス。

觀察期間。「サノクリジン」治療ハ昨年七月及八月ニ開始セリ。但シ十月、十一月頃ニ始メタル患者モアリ例外トシテ又十月初メニ始メタルモノモアリ、注射開始後ノ症狀經過ヲ注意シテ觀察シ十二月末ニ是等ノ成績ヲ一應取纏メ今年二月更ニ再調査ヲ行テ最後ノ取纏メヲナシタルモノニテ、各患者ノ觀察期間ニハ長短種々アルモ、要スルニ數ケ月間ノ觀察ニ過ギザルモノトス。即チ通常患者ノ經過惡シカルベキ盛暑ノ頃ニ始メ、經過良好ナルベキ冬季マデ觀察セルモノナリ。患者ノ選擇。全在所患者千名以上ノ中ヨリ、胸部ノ肺結核所見及其他一般症狀ノ明カナル患者ニシテ注射觀察ニ堪ユル見込ミアル者ヲ各病期各病型ノ患者中ヨリ選出セリ(第三表第四表參照)。而シテナルベク合併症ナキ患者ヲ選ブコト、シ、殊ニ腎臟病、心臟病、脚氣、腸結核等ノ合併ナキ患者ヲ選ベリ。

治療法トシテハ邦製「サノクリジン」ヲ新鮮ナル再餾蒸餾水ニテ五・〇%ノ割ニ溶解シ、毎週一回徐々ニ靜脈内ニ注入セリ。注射回數ハ第二表ニ示シタルガ如ク、注射量ハ第九表ニ掲ゲタルガ如シ。

觀察者トシテハ東京市療養所醫局醫員十八名ガ夫々二三名又ハ數名宛ノ患者ヲ治療シテ觀察セリ。之ヲ綜合シタル成績ハ次ノ諸表ニ示スガ如シ。

一般的經過

全患者數四十九名ニテ、其成績ヲ病症經過ノ良否ニ從テ分テバ第一表ノ如シ。即チ一七名ハ經過良好ニシテ、一七名ハ經過不良ト見ナスベキ結果ヲ示セリ。但シ本表ノ不良ノ中ニハ副作用的影響ニ因リテ經過不良トナリシ者ヲモ算入セリ。成績ノ良、不變及不良ヲ分ツニハ體溫、脈搏、呼吸數等溫度表上ノ所見、胸部理學的所見、其他一般ノ臨牀症狀ノ良否、肺臟ノ胸部「レントゲン」像ノ變化等ニ據レルハ勿論、尙其多數例ニ於テハ赤血球沈降反應ヲ檢シ、又其一部分ニ於テハ血球像診査、鴻上氏ノ血清學的診斷等ヲモ行ヒ之レヲ綜合シテ定メタルモノトス。

尙七月中旬(即チ最初ノ組ノ試驗開始當時ヨリ約一ケ年ノ後)ニ於ケル病狀ヲ各患者ノ試驗開始當時ノ狀態ト比較スレバ總患者數四十九名ノ中經過良好ナル者ハ僅ニ八名(一九%)ニシテ、不變九名(二二%)ナリ。經過不良ナル者ハ二五名(六〇%)ニシテ、中死亡一四名ヲ含ム。以上ノ外ニ退所後現在ノ狀態不明ナルモノ七名ヲ算ス。其ノ中六名ハ退所時ニハ輕快ヲ呈シ居リシ者ニテ一名ハ病勢増惡ヲ示セルモノナリ。但シ全患者四十九名何レモ一順注射ヲ施行セルノミニシテ、爾後何等特殊ノ療法ヲ行ハズ單ニ一般療法ノミニ委子置キタルモノナリ。而カモ七月中旬ニ至ルマデニハ注射後ノ期間甚ダ長ク、其間又種々他ノ影響ノ顧ミザル可ラザルモノモ多キヲ以テ、上記七月ノ成績ハ單ニ參考ニ供セラル、ニ過ギズ。

第一表

經 過		例 數	%	計	%
良 好	良 好	4	8.2	17	34.7
	稍く良 好	9	18.3		
	一時不良ナリシモ良 好	4	8.2		
不 變	不 變	5	10.2	15	30.6
	一時良 好ナリシモ不 變	6	12.2		
	一時不良ナリシモ不 變	4	8.2		
不 良	不 良	11	22.5	17	34.7
	稍く不 良	5	10.2		
	一時良 好ナリシモ不 良	1	2.0		

注射回数ト經過トノ關係

第一表ハ全體ノ試驗例ニ就テ述ベタルモノナレドモ、此中ニハ、一、二回ノ注射ヲ行ヒタル後何等カノ障礙ニ依テ中止シタル者ヲモ良又ハ不良ノ中ニ入レアルヲ以テ、斯カル者ヲ別途ニ觀察スルノ便ニ供セン爲メ、第二表ヲ掲ゲタリ。本表ニ據レバ經過良好ナル者ノ中七回以上注射ヲ行ヒタル者ハ一四例ニシテ、經過不良ナル者ノ中三回以上注射シタル者ハ一五例ナリ。

病期ト經過トノ關係

全觀察患者ヲ病期別ニスレバ三期患者多數ヲ占ムルコト第三表ニ示ス

第二表 注射回数ト經過トノ關係

注射回数	經過			計
	良	不變	不良	
1	1	0	1	2
2	1	0	1	2
3	0	1	3	4
4	0	2	4	6
5	1	1	4	6
6	0	2	2	4
7	6	1	2	9
8	3	2	0	5
	1	1	0	2
10	0	2	0	2
11	3	3	0	6
12	1	0	0	1

第三表 病期ト經過トノ關係

病期	經過			計
	良	不變	不良	
I	0	3	0	3
II	6	0	2	8
III	11	12	15	38

ガ如シ。而シテ二期ニハ不良ナル者ニ比シテ良好ナルモノ比較的多ク、三期ニハ良好ナル者ニ比シテ不良ナル者稍々多

シ。一期患者ハ少數ニシテ而カモ皆經過不變ナリシ爲メ批判シ難シ。但シ病期分類ハツルバン、ゲルハルト氏ノ式ニ從ヘリ。

病型ト經過トノ關係

病型ノ分チ方ヲ第四表ノ如ク三型ニ分チ、其ノ各々ニ就テ、明カナル空洞ヲ有スル者ヲ特ニ區別シテ觀察セル所ニ依レバ、停止性増殖型ノ患者ニハ良好ナル者特ニ多ク、進行性滲出型ノ患者ニハ不良ナル者最モ多カリキ。但シ後者ニモ一名ノ中良好ナル者二名ヲ出セリ。又進行性ノ者就中滲出型ノ者ニテ空洞ヲ有スル患者ニハ不良ノ經過ヲ取レル者著シク多カリキ。

第四表 病型ト經過トノ關係

病型	經過			總數
	良	不變	不良	
(1) 停止性増殖型	12	9	1	22
此中空洞アルモノ	3	2	0	5
(2) 進行性増殖型	3	5	8	16
此中空洞アルモノ	1	2	3	6
(3) 進行性滲出型	2	1	8	11
此中空洞アルモノ	0	0	4	4

第五表 性別ト經過トノ關係

性別	病型	經過			計
		良	不變	不良	
男	停止性増殖型	10	9	1	20
	進行性増殖型	3	5	4	12
	進行性滲出型	2	1	3	6
計		15	15	8	38
女	停止性増殖型	2	0	0	2
	進行性増殖型	0	0	4	4
	進行性滲出型	0	0	5	5
計		2	0	9	11

性別ト經過トノ關係

第五表ニ示スガ如ク、男子ニ於テハ經過良好ナル者比較的多ク、女子ニテハ經過不良ナルモノ著シク多カリキ。熱及體重ニ對スル影響

第六表

	熱	體重	經過
良	26	24	17
不變	11	4	15
不良	12	17	17
不明		4	

上掲ノ各項ハ皆全般ノ經過ヲ綜合シテ良否ノ判斷ヲ下シタルモノナルガ、肺結核ノ各個症
 狀ニ對スル影響ハ必ズシモ第一表又ハ第二表ノ成績ト一致セズ。今熱及ビ體重ニ及ボシタ
 ル影響ヲ表示スレバ、第六表ノ如シ。即チ全經過ノ良好ナリシ數ヨリハ體重ニ對スル影響
 ノ良ナリシ者(即チ體重増加セル者)ハ可ナリ多數例ニ及ビ、熱ノ良影響ヲ受ケタルモノ(即
 チ下降セルモノ)ハ更ニ多數ナルヲ見ル。

合併症ノ有無

全試験例中肺結核以外ノ合併症ヲ有シタル者ノ數及病名ハ第七表ノ如シ。
 喉頭結核ノ外ハ何レモ比較的少數ナリシヲ以テ、之レト「サノクリジン」治
 療經過トノ關係ヲ批判スルヲ得ズ。腸結核、輕症脚氣等ハ患者選出當時其
 診斷不明ナリシ爲メ誤テ加ヘラレタル者ナリ。

喉頭結核ノ經過

前項ニ掲ゲタル諸種合併症ノ中稍々多數例ヲ有シタルハ喉頭結核ノミナ
 リ。而シテ之ニ對シテハ「サノクリジン」ガ不良影響ヲ與ヘタルモノ多カリ
 キ。喉頭結核ハ直接眼下ニ其變化ヲ目撃シ得ルヲ以テ、殊ニ興味多ク考ヘ
 ラル。不良影響ヲ呈シタル四例ハ専門醫員高橋進氏ノ檢シタル所ニ據レバ
 注射後一週間、二週間又ハ一ヶ月等ノ時期ニ於テ發赤、腫脹、疼痛等増加

シ症候ノ増悪ヲ示シタリ。

注射後症狀

注射後ニ認メラレタル諸症狀ハ副作用トシテ見ルベキモノ多シ。中ニハ偶然的
 ノ所見モ混ジ居ルベキモ、今ハ凡テ掲ゲ置クコトトセリ。其中最モ頻發セルモ

第七表 合併症

病名	病例	計
腸結核	II.	1
肋膜炎	VII, XXI.	2
喉頭結核	X, XI, XII, XIII, XIV, XV, XX, XXI, XXIV.	8
頸腺結核	X, XXIII	2
黴毒	XI.	1
慢性中耳炎	XVIII.	1
痔核	XXI.	1
輕症脚氣	XXV.	1

第八表

喉頭結核ト
經過

經過	例數
良	0
不變	4
不良	4
計	8

原著

田澤II第三、「サノクリジン」ニ依ル人體結核治療成績

第 九 表

症 状	總同數	各症狀ニ起レル最少注射量及ビ其例數								
		0.05	0.1	0.20 → 0.25	0.3	0.4	0.5	0.6	0.70 → 0.75	
全身倦怠	4	1				1				2
不快	8			3		1			1	5
頭痛	16		5	2	1	1				9
惡寒	4	1			1					2
頭重	6	1				1	2			4
戰慄	3				1		1			2
熱	31	3	6	6	1	1	3			20
發疹	6			1	1		2			4
浮腫	2		1	1						2
口腔炎	2			1	1					2
喉頭痛	1		1							1
喉頭乾燥感	1		1							1
胸痛	5		3	1						4
呼吸促迫	3				1		1			2
胸内苦悶	1		1							1
肋膜滲出液	1		1							1
血痰	2			1	1					2
咯血	1	1								1
食慾不振	1		1							1
嘔氣	57	3	8	4	2	3	2		2	24
嘔吐	3				1	1	1			3
下痢	6	2		1						3
蛋白尿	40	2	5	2	1	5	2	1	2	20
圓柱	8		1	1			3		1	6
尿中赤血球	3						2		1	3
下肢倦怠感	1		1							1

ノハ嘔氣、熱及ビ蛋白尿ナリ。嘔氣ハ注射後直ニ之ヲ現ハスモノ多シ、熱トシテコ、ニ掲ゲタルハ注射後ニ突然トシテ一時的上昇ヲナセルモノニシテ、第六表ノ熱ニ對スル「サノクリジン」治療成績中ニ不良トシテ掲ゲタルモノトハ別ナリ。三九・〇又ハ四〇・〇近クノ發熱ヲ來ス事アリテ一、二日乃至數日間ニモ及ブ事アリ。蛋白尿ヲ出セル患者ノ中ニハ圓柱ヲ出セル者アリ。又浮腫ヲ來セル者アリ。故ニ明ニ腎臟炎ヲ起シタルモノトシテ認メ得ルモノアリトス。特異ナル副作用ハ高熱ヲ伴テ現ハレタル發疹ナリ。全試驗例四十九例ノ中四例ニ及ベリ。殆ド全身的ニ發シ、何レモ搔痒甚シカリキ。其形狀ハ慢性濕疹ニ似タル者アリ、又疥癬癢疹 (Prurigo) ニ似タルモノアリキ。前者ニハ平常慢性濕疹ヲ有シタル者ニテ、ソレノ増惡ヲ來セルモノナルガ如ク見ラレタル患者モアリキ、高熱ヲ發シ發疹ヲ現ハスハ一時ハ甚シキ不愉快ノ狀ナレ

ドモ、ソハ結核病竈ノ増悪トハ必ズシモ一致セズ。

習慣作用及蓄積作用ノ有無ニ關スル調査

全患者數ニ於ケル注射分量及回数ハ第十表ニ掲グルガ如シ。此表ニ於テハ熱、嘔氣及蛋白尿ノ三者ニ就キ習慣作用又ハ蓄積作用ノ有無ヲ檢セント欲シ、發現回数及ソレノ同量注射總回数ニ對スル%ヲ調査シタリ、此表ノ各欄ノ%ヲ見ルニ熱及嘔氣ハ一程度迄ハ注射分量ノ増加ト共ニ%モ増大スレドモ、ソレヨリ先ハ増加セズ、或ハ寧ロ減少ノ傾向アリ（幾分習慣性トイフニ近キ狀況ト見ルベキカ）。之レニ反シテ尿中ノ蛋白ハ注射回数進ミ注射量増スニ從テ發現ノ頻度ヲ増スヲ見ル。之レ固ヨリ一回ノ注射量ノ大ナルコトヲ一原因トスベシト察セラレドモ、「サノクリジン」試驗動物ニ於ケル腎臟ノ病理解剖的所見等ヨリ考察スレバ蓄積作用モ亦關與スルモノト見ラルベシ。

總括

第十表

習慣作用及蓄積作用ノ有無ニ關スル調査							
分量	注射回数	熱		嘔氣		蛋白尿	
		回数	%	回数	%	回数	%
0.03	3	0	0	0	0	0	0
0.04	3	0	0	0	0	0	0
0.05	50	4	8	3	6	2	4
0.1	75	8	11	16	21	6	8
0.2	48	8	17	13	27	5	10
0.25	12	2	17	1	8	3	25
0.3	27	3	11	4	15	2	7
0.4	26	2	8	6	23	7	27
0.5	49	3	6	9	18	8	16
0.6	6	1	17	1	17	2	33
0.7	11	0	0	2	18	2	18
0.75	3	0	0	2	67	3	100
計	313	31		57		40	

用的影響ニ因テ不良トナリシモノヲモ含ム。

(二)注射回数ト經過トノ關係ヲ見ルニ經過良好ナリシモノ一七例ノ中七回以上ノ注射ヲナシタルモノ一四例ニシテ、經過不良ナリシモノ一七例中三回以上注射シタルモノ一五例ナリ。

(一)ナルベク合併症就中腎臟炎、腸結核、心臟病、脚氣等ヲ有セザル患者ヨリ各病期各病型ノ患者四十九名ヲ選出シ、大多數ハ昨年ノ七月ヨリ十一月ノ間ニ於テ注射ヲ行ヒ其ノ期間中ヨリ今年ノ二月ニ至ル間ノ觀察ニ基キ左ノ成績ヲ得タリ。

良好一七例不變二五例、不良一七例(中死亡七例)。但シ經過不良ナリシモノ、中ニハ副作

(三) 男子ニテハ女子ヨリ成績良好ナリキ。

(四) 停止性増殖型ノモノハ成績最モ良好ニシテ、進行性増殖型ノモノ之ニ亞ギ、滲出型最モ不良ナリ(但シ滲出型一名中二名ノ良好ナルモノアルヲ見タリ)。空洞ノ有無ハ増殖型ニ於テハ影響ナク、滲出型ニ於テハ四名ノ空洞ヲ有スルモノアリテ何レモ不良ナリキ。

(五) 全経過ノ良好ナリシモノ、數ヨリハ、體重ノ増加セルモノハ一層多ク、熱ノ下降セルモノハ更ニ一層多カリキ。

(六) 喉頭結核ニ對シテハ影響不良ニシテ注射後發赤、腫脹、疼痛等ノ増加シ症狀ノ増悪セルヲ見タリ。

(七) 副作用等。注射後症狀ノ發現ハ藥劑トシテハ多キ方ニ屬ス。患者ハ時ニ甚ダシク苦悶ヲ訴フルコトアリ。殊ニ頻發スルモノヲ嘔氣(四九%)、蛋白尿乃至腎臟炎(四一%)及ビ發熱(四一%)ナリトス。蛋白尿ハ注射回数進ミ、注射量増大スルニ從ヒ、頻發ノ度ヲ増スノ傾キアリ。熱及ビ嘔氣ハ之ニ反スル傾向ヲ有ス。

(八) 發疹ハ四九例中四例ニ於テ之ヲ見タリ、何レモ發熱ヲ伴ヒ、搔痒ノ爲メ甚シキ苦悶ヲ訴ヘタリ。